

表 3. 鹿児島県各茶産地における各種薬剤のチャノミドリヒメヨコバイに対する効果

供試薬剤 (成分名)	希釈倍数 (倍)	発育 ステージ	室内：接種48時間後補正死亡率 (%)						ほ場：被害防止率 (%)			
			鹿児島	知覧	志布志	霧島	枕崎	穎娃	鹿児島	知覧	志布志	霧島
アドマイヤー水和剤 (イミダクロプリド)	1000	成虫	88.6	62.6	65.8	85.0	59.2	20.0	47.8	0.0	43.7	14.9
		幼虫	-	100.0	100.0	100.0	71.8	-				
モスピランSL液剤 (アセタミプリド)	2000	成虫	24.1	30.2	42.5	52.4	0.0	20.0	5.3	0.0	25.8	7.9
		幼虫	-	20.6	17.9	11.1	20.6	-				
スタークル顆粒水溶剤 (ジノテフラン)	2000	成虫	100.0	100.0	100.0	91.6	96.1	100.0	85.0	90.2	92.7	63.6
		幼虫	-	100.0	100.0	100.0	100.0	-				
ジェイエース水溶剤 (アセフェート)	1000	成虫	20.9	0.0	32.2	0.0	0.0	31.4	58.8	0.0	6.0	0.0
		幼虫	-	10.0	24.2	0.0	23.8	-				
カスケード乳剤 (フルフェノクスロン)	4000	成虫	4.1	0.0	19.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	1.1	34.7
		幼虫	-	59.1	0.0	0.0	27.6	-				
コデツプロアブル (コロールフェナピル)	2000	成虫	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	65.7	43.1	60.0	67.3	77.7
		幼虫	-	100.0	100.0	100.0	100.0	-				
ハチハチ乳剤 (トルフェンピラド)	1000	成虫	-	-	-	-	-	-	83.9	89.8	89.8	94.3
		幼虫	-	-	-	-	-	-				
ウララDF (フロニカミド)	1000	成虫	-	-	-	-	-	-	77.8	100.0	77.1	87.3
		幼虫	-	-	-	-	-	-				

注1) 秋芽萌芽期の発生は、鹿児島「多」、知覧「中」、志布志「甚」、霧島「甚」であった。

2) イミダクロプリドの室内検定は、アドマイヤー顆粒水和剤 (5000倍) を供試

3) 枕崎と穎娃はほ場試験は未実施

4) 「-」は検定なしを示す